図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
41(4): 475-477, 1995

□魚類相

Fishes of Taiwan.—Shih-Chieh Shen (ed.). 1993. Department of Zoology, National Taiwan University, Taipei, Taiwan. xx+960 pp. ISBN 957-9019-44-4. 沈世傑と彼の弟子達による台湾産魚類の図鑑．属と種の検索表，目，属，種の特徴が中国語で示されている．カラー図版があるので中国語が読めなくても役に立つであろう．出版年が中華民国82年12月としか示されていないが，1993年のことである．その国独自の元号を用いると他国の人間にはまことに不便である．学術出版物では元号のみを用いるのは適切ではない（西暦のみなら全く問題はない）．他山の石とすべき事例である．ざっと見たところでは，沈世傑の個人出版であった台湾近海魚類図鑑より，はるかに内容はよい．もっとも，台湾近海魚類図鑑には数え切れないほどの誤りがあり，スズキ目のヒレナガハギをアカマンボウ目のクサアジと間違えるという呆然とするような例もあったので，今回の図鑑も注意して利用する方がよいであろう． (KM)

Reef Fishes of New Guinea.—Gerald R. Allen and Roger Swainston. 1993. Christensen Research Institute, Madang, Papua New Guinea. 132 pp. ISBN 9980-9999-0-X. A$17.00. ニューギニアのサンゴ礁性魚類を扱ったガイドブック．既にオーストラリア北西部の魚類について，Allen and Swainston で同様の本を出版している．Allen はサンゴ礁性魚類の研究で有名で，Swainston は画家である．カラー写真よりも種の特徴をとらえやすい見事な図を描く．サンゴ礁の魚に興味のある人にとっては一見の価値があろう．ニューギニアで出版されたためか，取り寄せるのに時間がかかるのが難．フグ目の有毒種を食べられる種として表示するという重大なミスがあり，正誤表がついているとはいえ，不注意の極みと言うしかない． (KM)

□魚類分類学・進化学

Tripterygiid Fishes of Australia, New Zealand and the Southwest Pacific Ocean, with Descriptions of 2 New Genera and 16 New Species (Teleostei).—Ronald Fricke. 1994. Koeltz Scientific Books, Königstein, Germany; Champaign, USA. ix+585 pp. ISBN 3-87429-370-X (Germany); 1-878762-68-2 (USA). DM 195.00. ネズッポ類の研究で知られている著者は最近ヘビギンポ類を精力的に研究している．この出版物ではオーストラリアとニュージーランドのヘビギンポ類を分類学的に再検討し，標題にあるように多くの新種と2新属を記載している．今後，ヘビギンポ類を研究する人にとって欠くことのできない文献となるであろう．しかし，本書が筆者の手元に届いた直後に，著者から困った事態が起きたことを知らせてきた．本書は1994年9月5日に出版されたが，同年7月に出版されている Acta Zoologica Taiwanica, Vol. 5, No. 2 に Shen and Wu が台湾のヘビギンポ類の論文（新属新種を含む）を発表し，そのうちの2新種と1新属は Fricke が発表したものとシノニムになる．台湾の雑誌には出版年月は示されているが，出版日は示されていない．このような場合は，国際動物命名規約によって1994年7月31日に出版されたとみなされる．しかし，国立科学博物館の図書室が台湾の出版物を郵便で受け取ったのは10月初旬である．こうなると，台湾の雑誌の実際の出版日付が7月よりも後ではないかという疑問も生じる．いずれにしてもシノニム関係をめぐるこの問題が，早期に解決されることを望みたい．

なお，魚類学雑誌の編集委員会は，実際の出版日と雑誌に示された出版日のずれを最小（同一もしくは実際の出版日の方が示された出版日より数日早い）にするよう細心の注意を払っていることを付言しておく． (KM)

□分類学・進化学一般

Interpreting the Hierarchy of Nature: From Systematic Patterns to Evolutionary Process Theories.—Lance Grande and Olivier Rieppel. 1994. Academic Press, San Diego, California, USA. viii+298 pp. ISBN 0-12-295120-4. 多様性の解析に関連する問題から，それに基づき展開される進化プロセス理論まで，進化学に関するさまざまなトピックを扱った，計8篇の論文からなる本．1992年にシカゴの Field Museum で行われた

"Systematics and Process" というシンポジウムの口頭発表が下敷きになっている．内容は以下の通り．Pattern description, process explanation, and the history of morphological sciences (R. H. Brady)/Theoretical pluralism in biology, including systematics (J. Beaty)/Repeating patters in nature, predictability, and "impact" in science (L. Grande)/Morphological and molecular inroads to phylogeny (M. J. Novacek)/Stratocladistics: morphological and temporal patterns and their relation to phylogenetic process (D. C. Fisher)/The use of unconventional morphological characters in the analysis of systematic patterns and evolutionary processes (M. H. Wake)/The phylogeny of development and the origin of homology (N. H. Shubin). (MM)

Molecular Markers, Natural History and Evolution.—John C. Avise. 1994. Chapman & Hall, New York, USA. xiv＋511 pp. ISBN 0-412-03771-8 (cloth), 0-412-03781-5 (paper). 表題どおり，自然誌と進化学における分子マーカーの有用性を論じた本．著者の John C. Avise は，魚類も含むさまざまな脊椎動物分類群を対象に，分子データを用いて進化の問題を論じてきた人．"Phylogeography" という分野の提唱者としても知られている．とにかく膨大な自著論文に裏打ちされた本書の内容には圧倒される．自分の解くべき問題の所在が明らかな研究者なら，得るところは限りないであろう．翻訳されるべき本だと思う． (MM)

エボルーション．—五條堀 孝・岩槻邦男・高畑尚之・中辻憲夫（編）．蛋白質 核酸 酵素（臨時増刊号），Vol. 39, No. 15. 共立出版株式会社，東京．396＋8 pp. ¥6,000（税込）．進化学の世界で活躍する日本の研究者が総力をあげて執筆した総説・エッセイ集．36 篇の総説と 16 篇のエッセイが，「分子・細胞」（I. 遺伝子とゲノム；II. 染色体），「個体」（III. 発生；IV. 自己・非自己の識別），「種」（V. 種分化；VI. 系統）の大きく 3 つのトピックに分けられている．多くの論文が自分の研究に基づいて書かれているため，出来の悪い英語の論文集を買うより絶対におトク． (MM)

生物学名命名法辞典．—平嶋義宏．1994．平凡社，東京．vxi＋493 pp. ISBN4-582-10712-5. ¥8,240（税込）．学名の文法，すなわちその語源，造語法，属名の性の決定，それに一致する種小名（形容詞）の語尾変化など，分類学者にとってさえやっかいな問題を，比較的平易なことばで解説した本．第 1 章「学名の基礎的知識」は著者の前著（「学名の話」）の拡大焼き直し版．第 2 章以降は，動物，植物，微生物の各論である．動物はサルとヒトのみを取り上げている．第 1 章にのみ，魚類の具体例も散見される．索引は充実している． (MM)

分子進化学への招待—DNA に秘められた生物の歴史．—宮田 隆．1994．講談社，東京．280＋v pp. ISBN 4-06-257047-5. ¥780（税込）．第 1 部「分子進化のしくみ」，第 2 部「分子でたどる生物進化の道筋」，第 3 部「形態進化と分子進化の接点」で構成される一般読者も想定した読み物．とくに第 3 部は，分子進化学もついにここまできたのかと思わせる内容．著者自身の研究内容が数多く反映されているので読みごたえがある．故木村資生先生の業績の偉大さを知るにも好適な書． (MM)

進化論と生物哲学—進化学者の思想． —E. マイア．1994．八杉貞雄・新妻昭夫（訳）．東京化学同人，東京．xvi＋545＋60 pp. ISBN 4-8079-0423-X. ¥4,300（税込）．1988 年に出版された "Toward a New Philosophy of Biology" の翻訳．エッセイ 25 篇からなるが，エッセイにしては内容は高度．十分すぎるほどの読みごたえがある．著者は，あれだけ多数の著作をもっているにもかかわらず，邦訳は昨年の国際生物学賞受賞までわずか 1 冊．もっと翻訳されてしかるべきものはいっぱいあるはずだが． (MM)

脊椎動物の進化［原著第四版］．—E. H. コルバート・M. モラレス．1994．田隅本生（監訳）・天野雅男・遠藤秀紀・小早川みどり・中島経夫・西尾香苗・林 光武・安川雄一郎（訳）．築地書館，東京．ix＋554 pp. ISBN 4-8067-1113-6. ¥12,360（税込）．M. モラレス氏が共著者となって改訂された第 4 版の邦訳．旧版のしっかりした構成，読みやすさ，明瞭な挿図はそのままに，近年明らかになったいくつかの重要な属についての情報が加えられており，脊椎動物分類学の教科書として最適の一冊といえよう．旧版の邦訳は上・下 2 冊であったが，今回は分厚い 1 冊となり，価格は残念ながら倍以上になってしまった． (TS)

□魚類生態学・行動学

川と海を回遊する淡水魚—生活史と進化．—後藤 晃・塚本勝巳・前川光司（編）．1994．東海大学出版会，東京．viii＋280 pp. ISBN4-486-01293-3. ¥2,987（税込）．通し回遊魚の生活史，生理，進化，種分化に関する総説に加えて，ウナギ，サケ，アユ，ヨシノボリなど日本の回遊魚それぞれの生活史の特徴を紹介する．編者ほか 11 名が執筆． (TK)

Environmental Biology of Fishes.—Malcolm Jobling. 1995.

Chapman & Hall, UK. xiii+455 pp. ISBN 0-412-58080-2. ¥7,230（税込）. 魚類の生理生態学のテキスト．感覚器官，摂食と消化，循環系と呼吸，神経系と内分泌，浸透圧調節，体型と遊泳，繁殖，初期発生，個体群動態，水環境の汚染などを幅広く扱う． (TK)

もっと知りたい魚の世界—水中カメラマンのフィールドノート．—大方洋二．1994．海游舎，東京．421+13 pp. ISBN 4-905930-70-7. ¥2,500（税込）．著者は水中カメラマンとして有名である．著者が潜水中に出会った魚の生態が平明な文体で述べられている．著者自身の観察に基づいているだけに，興味深い事例が多数紹介されている．魚類の行動や生態に興味のある人に勧めたい好著．巻末に Moyer（中園明信訳）による用語解説がついている． (KM)

□行動学・生態学一般

Advances in the Study of Behavior, Vol 23.—Peter J. B. Slater, Jay S. Rosenblatt, Charles T. Snowdon and Manfred Milinski (eds.). 1994. Academic Press, USA. xi+284 pp. ISBN 0-12-004523-0. ¥11,090（税込）．動物行動に関する総説集のシリーズ最新巻だが，グループ淘汰やなわばり行動に関する総説のほか，魚類を扱った論文3篇を含んでいたので著者とタイトルを紹介する．1) Taborsky, M. T.: Sneakers, satellites and helpers: parasitic and cooperative behavior in fish reproduction. 2) Dugatkin, L. A. and H. K. Reeve: Behavioral ecology and levels of selection: dissolving the group selection controversy. 3) Bakker, T. C. M.: Genetic correlations and the control of behavior, exemplified by aggressiveness in sticklebacks. 4) Stamps, J.: Territorial behavior: testing the assumptions. 5) Kramer, B.: Communication behavior and sensory mechanisms in weakly electric fishes. (TK)

□魚類一般

Encyclopedia of Fishes.—John R. Paxton and William N. Eschmeyer (eds.). 1994. University of New South Wales Press, Sydney, Australia. 240 pp. ISBN 0-86840-182-X. 無顎類からフグ目まで，魚類すべてのグループを多くのカラー写真と図によって解説した本．45人の著者が専門のグループを担当して執筆している．なお，本書の編集過程に若干問題があったため，写真と写真説明が一致していない等の誤りもある．Paxton からの情報では Academic Press から第2版が出版される予定なので，その出版を待った方が賢明かも知れない． (KM)

□その他

アクアリストの楽園．—荒俣　宏．1994．角川書店，東京．167 pp. ISBN 4-04-883383-9. ¥2,500（税込）．博覧強記を身をもって示してくれる荒俣　宏氏が趣味人（アクアリスト）の立場から書いたエッセイ本．全編，質の良いカラー写真と素晴らしい博物画であふれており，それを見ているだけで楽しい．また，魚類の進化に関するユニークな発想もあったりして，読んでいてためになった．ただ，写真や画のキャプションに誤りが散見されるのは残念．巻末には魚類学会会員の吉野哲夫氏との対談が載録されている． (MM)